



# IUFRO-J NEWS

No. 130 (2021.7) —

## IUFRO 8.01.02 Landscape Ecology 作業部会の紹介

森林総合研究所 東北支所 松浦俊也

### はじめに

IUFRO 8.01.02 Landscape Ecology (景観生態学) は、IUFRO に常設された9つの部門 (Division) のうち、第8部門 (森林環境) の第1ユニット (森林生態系機能) に属する作業部会 (Working Party, WP) です。森林資源管理における景観生態学の理論・応用・実践の橋渡しを目的に1991年に設立され、本年は30周年にあたります。景観生態学は、地理学、生態学、地域計画学などを母体に発展してきた学際領域です。自然と社会にまたがる様々な地理的スケールで相互関連するランドスケープのパターンやプロセスとその変化を理解、モデル化、予

測し、資源管理に資することを主目的としています。とりわけ1980年代以降のGIS (地理情報システム) やリモートセンシング技術の進展を背景に発展してきました。本稿では、筆者が関わりのある同WPの概要を紹介します。

### 研究集会

本WPでは、5年毎のIUFRO世界大会とは別途、研究集会を開催しています。とくに2004年の第4回大会 (日本・つくば) を契機に活動が活発化し、以降2~3年ごとに集会が開かれ (表-1)、いくつか関連書籍も出

表-1 過去の研究集会

No.	年	国 (都市)	テーマ
第4回	2004	日本 (つくば)	Conservation and Management of Fragmented Forest Landscapes
第5回	2006	イタリア (ロコロンド)	Patterns and processes in forest landscapes: consequences of human management
第6回	2008	中国 (成都)	Landscape Ecology and Forest Management: Challenges and Solutions
第7回	2010	ポルトガル (ブラカンサ)	Forest Landscapes and Global Change: New Frontiers in Management, Conservation and Restoration
第8回	2012	チリ (コンセプション)	Sustaining Humans and Forests in Changing Landscapes: Forests, Society and Global Change
第9回	2015	エストニア (タルトゥ)	Sustaining Ecosystem Services in Forest Landscapes: Concepts, Research, and Applications
第10回	2017	ドイツ (ザール)	The Green-Blue Nexus: Forests, Landscapes and Services

Introduction of IUFRO 8.01.02 - Landscape Ecology working party  
Toshiya Matsuura: Tohoku Research Center, FFPRI

版され、近年は南米地域集会も開かれています。各集会には100名弱～200名程度の参加者があり、多様な国・地域の関連研究者間で活発に議論されています。このうち、これまで筆者が参加したのは、第4回（2004年、日本）と第10回（2017年、ドイツ）の2回です。2004年集会では、当時の森林総研の方々が中心に準備・運営を進められ、私は大学院生でポスター発表に参加し、受付等を少し手伝いました。その後、筆者は、国内外の方々からWPの様子を時折聞いたり、IUFRO世界大会の関連セッションに参加したりするのみでしたが、2017年ドイツ大会に久々に参加しました。

### 2017年ドイツ大会

この研究集会は、同年9月にドイツ・フライブルクで開かれたIUFRO125周年記念大会の翌週に、旧東ドイツのザーレにあるマルティン・ルター大学で開かれました。筆者は当時、福島原発事故が山村住民の天然特産物利用に与えた影響についての科研費成果発表で、両方に2週続きで参加する機会に恵まれました。元々は、前年にトルコのイスタンブールで計画されていたものの、治安悪化でドイツに変更になり、参加者はやや少なめとのことでしたが、それでも欧州を中心に、北米・中南米、アジアなど、各国から数名ずつ、計100名弱の参加がありました。開催テーマは“The Green-Blue Nexus: Forests, Landscapes and Services”で、基調講演の他、2～3部屋に分かれた3日間のパラレル・セッションと、中日にバス一台で農村景観を巡検するエクスカージョン（写真-1）、また前後にも講習会やエクスカージョン（こ

ちらは筆者は不参加）がありました。扱われたテーマは、(1) Biodiversity and ecosystem services, (2) Economy - including Natural Capital, (3) (Forest) social-ecological systems, climate and global change impacts, (4) Urban forestry and urban systemsに4区分され、地理的なモニタリング・モデリング・将来予測、生態系サービス評価、森林計画・管理、鳥獣害をはじめ、多様なトピックが議論されました。規模の大きいIUFRO世界大会に比べ、興味・関心の近い人々が各国から集い、会期を通して議論できるアットホームさが印象的でした。また、学内に軽食や昼食のスペースが仮設され、継続して交流できました。発表はポスターと口頭の両募集があったものの、実際には口頭のみでした。

### WPの運営

IUFROの各WPは、代表と副代表数名によって運営されています。景観生態学WPは参加者が比較的多いため、代表1名と副代表2名に加えて、独自にWP内にいくつかの地域やテーマごとのコーディネーターを追加で定め、これらの方々も加わり、Eメールや数ヶ月ごとのWeb会議により活動方針づくりがなされています。また、ホームページやメーリングリスト（登録者600名程度）のほか、SNS（フェイスブック）等も通して各種広報がなされています。

日本からは、同WPの研究集会に初期から最近まで継続参加されていた杉村乾氏（元森林総研・元長崎大）が、当初はアジア地域、その後、日本・オセアニア地域担当（実質は主に日本担当）として、集会・セッション



写真-1 エクスカージョンの様子（ドイツワインぶどう畑地帯。同WPのHPより）

表-2 ウェビナーのテーマ

No.	年月	テーマ
第1回	2020.06	Landscape Ecology and the COVID-19 pandemic
第2回	2020.11	Urban Green Infrastructure: How can urban green infrastructure contribute to pandemic and climate resilience?"
第3回	2021.04	Forests in Fukushima and Chernobyl: People, wildlife and landscape
第4回	2021.05	Landscape ecology in the UN Decade on Ecosystem Restoration

(年3回程度のペースで継続予定)

準備等に関わられていました。同氏が2019年3月に退職・退任され、私が引き継いでいます。

### ウェビナー

2019年当初の課題は、やや期間が空いていた次回の研究集会準備と、中南米の学生会員の参加支援等でしたが、2020年以降の新型コロナ禍で、当面の開催が困難な状況となっています。そこで、ウェビナー（オンラインセミナー）を始めることになりました（表-2）。第1～2回のテーマは、新型コロナ・パンデミックに景観生態学や都市のグリーン・インフラが果たす役割についてで、このときの議論にもとづく総説記事（editorial）2件が、Landscape Ecology 誌（35～36号）に掲載されています。第3回では、2021年が福島原発事故から10年、チェルノブイリ原発事故から35年の節目であることから、IUFRO 8.04.07 “Radioactive contamination of forest ecosystems”（森林生態系の放射能汚染）代表の橋本昌司氏（森林総研・東京大）の提案に基づく合同ウェビナーを行いました（詳細は本号の橋本氏の記事をご覧ください）。続く第4回では、「国連生態系回復の10年」（2021

～2030年）における森林生態系回復に向けた社会・政策的視点が議論されました。開催時間帯は、世界各地からの参加しやすさから日本時間の夜10～12時頃が多いですが、開催後もYouTubeにて動画視聴可能で、多くの方が閲覧できるようになっています。

### おわりに

本WPは、景観生態学とその応用について、多くの国々から参加・議論が行われ、関心テーマの近い方々にとって魅力的な場になっています。また、比較的小規模で、テーマ提案等を反映しやすい面もあります。もし何かご提案等ありましたらご連絡ください。新型コロナ禍で、次回の研究集会の見通しは現時点では未定ですが、引き続きウェビナーを継続予定です。現在までの活動は、同WPのHPで概要を見ることができます（<https://iufro-wp.weebly.com/>）。また、本WPには参加規定は特に設けられておらず、ご関心の方はまずはメーリングリスト登録から始めて頂ければと存じます（<https://www.iufro.org/science/divisions/division-8/80000/80100/80102/mailling-list/>）。

## ワーキングパーティー・ジョイントウェビナー

### 「福島とチェルノブイリの森一人々、野生生物、ランドスケープ」

### （4月14日）の開催報告

森林総合研究所 立地環境研究領域 / 東京大学大学院 農学生命科学研究科 橋本昌司

#### はじめに

このウェビナーを思いついたのは、ちょうど一年ほど前、コロナ禍のため自宅で勤務していたときのことです。筆者は2019年秋から、8.04.07 “Radioactive Contamination

of Forest Ecosystems（森林生態系の放射能汚染）”ユニットのコーディネーターを拝命していました（当ユニットについては前コーディネーターの三浦覚氏によるIUFRO-JニュースのNo.127の記事をご覧ください）。海

Forests in Fukushima and Chernobyl — people, wildlife, and landscape —

Shoji Hashimoto: Department of Forest Soils, FFPRI / Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

外とのプロジェクトで何度か夜中のオンライン会議に出たり、兼務をしている東京大学でオンラインの講義やゼミが始まったりしていました。日本の中はもちろんのこと、世界がオンラインで空間を超えてつながることが急速に当たり前になっている最中でした。

同じく森林総合研究所の同僚である松浦俊也氏は、2019年秋から8.01.02“Landscape Ecology (景観生態学)”ユニットのアジアオセアニア担当のcommitteeメンバーになっており、比較的活発な同ユニットではコロナ禍をきっかけにウェビナーが始まっていました。8.04.07においても、2024年のスウェーデン大会までの間になにかしらのイベントをしたいと思っていたところに、二つのワーキングパーティーによるジョイントウェビナーを思いつきました(図-1)。

もともとこのユニットに関わるようになったときから、IUFROのキーワードである“forests”, “science”, “people”は、まさに「放射能汚染」問題のテーマと同じであると思っていました。さらに今回、“landscape”というキーワードを聞いたときに、これもまさに森林の放射能汚染のキーワードにぴったりと思ったのです。筆者らのワーキングパーティーではつつい森の中に集中しがちなのですが、丘の上に立ち視野を広げて俯瞰的にふっと汚染地域を見たときに、すなわちlandscapeスケールで見たとき、放射能汚染問題をより俯瞰的に見る

ことができると思ったのです。また里山の景観は人と自然の相互作用で形成されており、放射能汚染は森林を含めた景観に大きな影響を与えていたからです。

#### 企画の構成

松浦氏経由でLandscape Ecologyのcommitteeに企画案を提案し、承認を受け、その後半年ほどかけて、緩やかに松浦氏と打ち合わせをしながら構成や発表者を決定していきました。開催日は福島事故(3月11日)とチェルノブイリ事故(4月26日)の起きた日の間で、発表者の予定が空いている日、そして世界中でできるだけたくさんの方が入れる時間帯ということで、4月14日のグリニッジ標準時午後1時(日本時間夜10時)となりました。また発表者とオンラインの打ち合わせやメールのやりとりを通じて、ウェビナーでの発表内容や議論の内容、キーメッセージを絞り込んでいきました。かなり直前まで、例えば議論の内容については前日まで、議論を行いました。

#### 動画が公開されています

以下簡単に、ウェビナーの内容について紹介します。なお、発表者との事前の打ち合わせでは、ウェビナーの動画は期間限定・登録者限りの予定でしたが、終了後に全員から完全公開の同意が得られたので、現在YouTube

The poster is a vertical green-themed graphic with white and yellow text. At the top left is the IUFRO logo. Below it, the text reads: "IUFRO Landscape Ecology Working Party (8.01.02)", "30th Anniversary IUFRO LANDSCAPE ECOLOGY WP", and the URL "https://ultide-wp.uecibh.com". The main title is "Forests in Fukushima and Chernobyl - people, wildlife, and landscape -". Below the title, it says "Joint webinar of IUFRO WP 8.01.02 and 8.04.07". There are three speaker portraits: a man in a dark suit (Moderator and overview by Shoji Hashimoto), a woman in a blue top (Local people by Haruka Fujiwara), and a man in a blue shirt (Wildlife by Mike Wood). The date and time are "14 April 2021 13:00-14:30 (GMT) (Greenwich Mean Time)". A QR code is at the bottom left, and a registration link "https://forms.gle/7up-V7jCaLQkNaYHR?" is in the center. A note says "(The video will also be available from the above link for a few weeks after the webinar)". At the bottom right is a silhouette of a tree.

図-1 ウェビナーのポスター(Landscape Ecology ワーキングパーティーのウェビナーシリーズのものをベースに作成)

動画はこちらから公開されています ([https://www.youtube.com/watch?v=-OXNt\\_-6vMg](https://www.youtube.com/watch?v=-OXNt_-6vMg))。それぞれの発表はもちろんのこと、議論は大変興味深いものとなっています。是非ご視聴ください。

### ウェビナーの内容

ウェビナーでは、まず松浦氏から IUFRO やワーキングパーティーの概要について 5 分程度説明の後、筆者から「福島事故とチェルノブイリ事故の概要と森林」に関してと「ウェビナーの趣旨」について 10 分程度説明を行いました。そこから 3 件の発表がありました。

一件目は、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の田殿武雄氏から、衛星から捉えた、福島県の土地被覆の変化について発表がありました。二件目は、福島大学の藤原遙氏から、山村の住民が受けた様々な影響や、藤原氏自身の地域住民との取り組みなどに関して発表がありました。三件目は、英国 Salford 大学の Mike Wood 氏から、チェルノブイリと福島の大型野生動物の受けた影響、また最近のチェルノブイリの様子や教育活動に関しての発表がありました (画像 -1)。Wood 氏は 8.04.07 のサブコーディネーターも務めています。発表後、Google Forms で集めた質問に関して発表者一人あたり 2 つ程度の質問について回答しました。

最後に、発表者に加えて、松浦氏も加わり総合討論を行いました。総合討論ではいくつかのテーマに関して筆者からパネリストに質問をしていきました。

一つ目の議論は、リモートセンシングや地理情報シ

テム (GIS) などの技術を用いて広域を捉えていく手法の強み (と弱み) に関してです。

二つ目の議論は、Wood 氏の言葉を借りた「汚染地域は natural laboratory」という考え方についてです。突如として放射能で汚染され、人々がいなくなった地域は、語弊を恐れずに表現するならば非常に大きな実験を行なっているような状況であり、多くのことを知る機会になります。しかしながら、そこには被害にあった人々がいるわけであり、表現には注意が必要だと言う意見も出されました。

三つ目の議論は、再野生化 (Rewilding) です。私たちが通常目にする地域は、常に人間活動の影響を受けています。広大な立入禁止区域ができたことで、またその外であっても森と人との関わりが減ったために、その地域では人間活動と自然とのバランスが変化しています (動植物が繁栄しています)。チェルノブイリでは多様性が向上するなど、ポジティブな側面も見られています。福島県においてもどのように再野生化と付き合っていくかの議論が必要です。

四つ目の議論は、コミュニケーションと教育に関してです。汚染された地域は里山であり、ヒトと自然の相互作用によって形成されています。特に藤原氏は地域のコミュニティに入って活動しており、Wood 氏も事故から 35 年経った現在でも、コミュニケーションと教育に力を入れています。

最後にパネリストから将来に関して一言ずつもらいました。田殿氏からは、今後もモニタリングを続けていく



画像 -1 ウェビナーの一場面 (YouTube 動画より)



YouTube 動画へ

ことの重要性、藤原氏からは住民に寄り添った時間をかけた取り組みの重要性、Wood氏からはチェルノブイリと福島の間での情報共有の重要性、松浦氏からは、福島事故から学んだことが福島以外の山村研究でも活用できる点などが指摘されました。

### オンラインの可能性

コロナ禍はオンラインでのコミュニケーションを一気に普及させました。たとえコロナが収まっても、おそらくは今後のコミュニケーションはハイブリッド（対面とオンラインの共存）になると言われています。今回のウェビナーも準備はそれなりに大変ではありましたが、空間を超えて発表者を誘うことができ、空間を超えて聴

衆を誘うことができ、さらにビデオを用いれば後日見せることもできる、という利点は、オンラインであるがゆえに失うものを考慮しても非常に大きいものと感じました。今回は50の国から計200件前後の事前登録がありました。YouTubeのビデオも、公開数日で200回を超える再生回数に至りました。このような「世界と比較的簡単に繋がることのできる」オンラインは、今後のIUFROの活動、IUFRO-Jの活動にとって大きな可能性を持っていると思いました。

注：本ウェビナーはIUFRO-J後援とし、会員の皆様にメールでご案内いたしました。周知を希望する研究集会有りましたら、事務局までご一報ください。

## IUFRO-J 令和3（2021）年機関代表会議

第132回日本森林学会大会がオンライン開催となりましたので、表記会議は今年度も、議題と参考資料を機関代表者に電子メールで送付し、審議いただく形で開催いたしました。3月24日（水）にA会員19機関、B会員15機関（合計34機関）の代表者に電子メールを送付し、30日（火）まで意見等を求めました。その結果、議案を否認する連絡は1機関もなかったことから、議案は承認されました。以下、代表会議で審議、承認された議題の概要を報告いたします。

### 議題1. 2020年度会務報告

#### 1-1. 一般会計事業

##### 1) IUFRO-J NEWS 発行

No.128（2020年7月）

- ・ IUFRO-J 議長就任にあたって
- ・ IUFRO 国際評議員会報告
- ・ IUFRO-J 令和2（2002）年機関代表会議
- ・ 事務局からのお知らせ

○ IUFRO 本部ウェブサイトでの案内：

<https://www.iufro.org/discover/noticeboard/iufro-announcements/article/2020/08/06/iufro-japan-news-no-128/>

No.129（2021年2月）

- ・ 森林教育における IUFRO の役割
- ・ 世界から注目されている日本の森林教育
- ・ 「死の谷」の渡り方 — IUFRO2019 でのブース実演報告 —

- ・ 新刊紹介 Teplyakov, Victor K. 2020. The Distinguished Service Award of the International Union of Forest Research Organizations: 1981-2019. Vienna, IUFRO. 138 p. (IUFRO 功労賞 1981-2019)
- ・ 事務局からのお知らせ

○ IUFRO 本部ウェブサイトでの案内：

<https://www.iufro.org/discover/noticeboard/iufro-announcements/article/2021/04/15/iufro-japan-news-no-129/>

##### 2) IUFRO 関連研究集會事務局・参加助成

申請 0

##### 3) IUFRO 本部との連携

- (1) IUFRO の活動を広く知っていただくため、IUFRO-J NEWS No. 129 の該当部分を「一部記事」PDFとして、2021年2月より部分公開した。  
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/iufro-j%20NEWS.html>
- (2) IUFRO が発信する情報等を、IUFRO-J ウェブサイトの「新着情報」にも逐次転記し、広報した。（2020年4月1日～2021年3月10日までの期間で、計26件。）  
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>

## 4) IUFRO-J 活動の普及啓発

- (1) IUFRO-J の活動を国内外のより多くの人に紹介するため、IUFRO 本部ウェブサイトでの IUFRO-J NEWS の発行案内用に、No. 113 以降で行っている担当者への PDF の提供を新刊分 (No. 128-129) でも実施した。  
<https://www.iufro.org/discover/noticeboard/iufro-announcements/>
- (2) IUFRO-J NEWS 冊子体を関係機関の図書館等に寄贈した。
- (3) ISSN 日本センター (国立国会図書館収集書誌部 逐次刊行物・特別資料課) に IUFRO-J NEWS 発行毎に、2 部送付した。
- (4) 会員外への情報発信の一環として、発行後 1 年を過ぎた IUFRO-J NEWS は、ウェブサイト上に PDF ファイルとして公開した。

## 5) 会員内の情報共有

- (1) 必要事項について、IUFRO-J のメーリングリストを通じて、配信を行った。  
 各メーリングリスト送付範囲は以下の通り：  
 [iufro-j\_rep] 機関代表者および連絡員  
 [iufro-j\_c] C 会員 (個人会員)  
 [iufro-j] 事務局にメールアドレスを連絡頂いている全 IUFRO-J 会員

--[iufro-j\_rep:20] 【4 月 6 日 (月) 迄】 IUFRO-J 令和 2 (2020) 年機関代表 (メール) 会議, 議事資料 Tue, 24 Mar 2020

--[iufro-j\_rep:21] 【資料差替: 4/6 (月) 迄】 IUFRO-J 令和 2 (2020) 年機関代表 (メール) 会議 Sat, 28 Mar 2020

--[iufro-j\_rep:22] 【4/6 (月) 迄】 2020 年度役員候補事務局案 (IUFRO-J 機関代表メール会議) Wed, 01 Apr 2020

--[iufro-j\_rep:23] 【資料再差替: 4/8 (水) 迄延長】 IUFRO-J 機関代表メール会議 Fri, 03 Apr 2020

--[iufro-j\_rep:24] IUFRO-J 令和 2 (2020) 年機関代表 (メール) 会議 (原案承認連絡とご挨拶) Fri, 10 Apr 2020

--[iufro-j\_rep:25] 事務連絡: 当面の IUFRO-J 事務局運営体制について Fri, 10 Apr 2020

--[iufro-j:38] ☆ IUFRO-J 事務局からのお知らせ☆ Wed, 22 Jul 2020

--[iufro-j\_rep:26] IUFRO-J NEWS No.128 の配信 (機関内

会員へ配布のお願い) Mon, 27 Jul 2020

--[iufro-j\_rep:27] 送付のお知らせ (会費納入のお願い) Mon, 17 Aug 2020

--[iufro-j\_c:2] 送付のお知らせ (会費納入のお願い) Mon, 17 Aug 2020

--[iufro-j\_rep:28] IUFRO 本部より) Invitation to participate in an important study on forest education Wed, 19 Aug 2020

--[iufro-j\_c:3] IUFRO 本部より) Invitation to participate in an important study on forest education Wed, 19 Aug 2020

--[iufro-j:39] ☆アンケート (CoVid-19 が温帯林・亜寒帯林に…) ご協力をお願い: IUFRO-J 事務局より☆ Thu, 29 Oct 2020

--[iufro-j\_rep:29] 機関代表会議について & (未納機関向け) 会費納入のお願い Tue, 01 Dec 2020

--[iufro-j\_rep:30] IUFRO-J NEWS No.129 の配信 (機関内会員へ配布のお願い) Fri, 12 Feb 2021

## 6) その他

- (1) IUFRO-J 名義の筑波銀行総合口座を廃止した。事務局で管理・運用するのは、ゆうちょ銀行の「総合口座」「振替口座」の 2 口座となった。
- (2) 必要なところに過不足なく送ることを徹底するため、IUFRO-J NEWS 冊子体送付先の再確認を行った。

## 1-2. 2020 年度役員

議長	中静 (浅野) 透	(森林総合研究所)
監事	瀧澤 英紀	(日本大学)
	石塚 森吉	(国際緑化推進センター)
幹事長	平田 泰雅	(森林総合研究所)
幹事	藤間 剛	(森林総合研究所)
主事	杉元 倫子	(森林総合研究所)

[参考] IUFRO 国際評議員会日本代表 (~ 2024)

代表	中静 透	(森林総合研究所)
代表代理	坪山 良夫	(森林総合研究所)

## 1-3. 2020 年度会員数

A 会員: 19 機関 計 472 名 (会員数前年度比: 3 名減)

B 会員: 15 機関 計 38 名 + 6 口  
(会員数前年度比: 1 名減)

C 会員: 23 名 (会員数前年度比: 1 名減)

賛助会員: 0

## 議題 2. 2020 年度 (2020.03.01~2021.02.28) 会計決算報告

## 一般会計

## 【収入】 (円)

科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,032,820	1,036,617	
会費			
A 会員	350,000	430,000	17 機関
B 会員	40,000	38,000	9 機関
C 会員	22,000	18,000	18 名
2019 年度未収	152,000	209,000	2019 年度までの会費を 2020 年度に払った団体、個人；12 機関，C 会員 4 名
次年度前納	3,000	2,000	2021 年度の会費を 2020 年度に払った個人；C 会員 2 名
雑収入	0	7	利息
単年度収入小計	567,000	697,007	
合計	1,599,820	1,733,624	

## 【支出】 (円)

科目	予算	決算	備考
情報活動費	337,000	179,508	IUFRO-J NEWS 印刷及び発送料
内訳			
NEWS No. 128 印刷	150,000	62,260	送料 5,920 円，発送手数料 3,300 円
〃 発送	15,000	9,220	
NEWS No. 129 印刷	150,000	92,620	送料 7,190 円，発送手数料 3,300 円
〃 発送	15,000	10,490	
通信費	7,000	4,918	郵送費，宛先用ラベル購入
会議費	0	0	
雑費	30,000	16,158	送金手数料，会費振込手数料，受払通知票発行料
助成	0	0	
単年度支出小計	367,000	195,666	
次年度繰越	1,232,820	1,537,958	2019 年度採択助成金 (1 件・200,000) を含む
合計	1,599,820	1,733,624	

## 議題 3. 2020 年度監査報告

## 2020 年度監査報告

2020 年度 IUFRO-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

署名 瀧澤 夫記 (印)

## 2020 年度監査報告

2020 年度 IUFRO-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

署名 石塚 森吉 (印)

## 議題 4. 2021 年度事業計画案

## 1. 一般会計事業

## 1) IUFRO-J NEWS 発行

以下、番号 (予定時期)：掲載記事に関する事務局案、について記述する。

No.130 (2021 年 7 月)：機関代表会議報告，集会報告，IUFRO 本部紹介，IUFRO INFORMATION，IUFRO-J 事務局からのお知らせ

No.131 (2022 年 1 月)：集会報告，IUFRO 本部紹介，IUFRO INFORMATION，IUFRO 関連集会カレンダー，IUFRO-J 事務局からのお知らせ

補足：

- ・ IUFRO 及び IUFRO-J の目的や主旨に沿う内容とし、会員相互に広く共有すべき記事を掲載する。
- ・ 各 200 部印刷し、冊子体が必要な B 機関と C 会員に配布する。また、関係者にも広く配布して会員拡大に取り組む。(それ以外の会員には原則 PDF ファイルをメールで配信する。)

## 2) IUFRO 研究集会事務局・参加助成

## 2.1) 2019 年選考分 (繰越)

事務局助成：採択 1 件 (助成金額 20 万円)

- ◎新潟大学 ACID RAIN 2020: The Future Environment and Role of Multiple Air Pollutants, 10th International Conference on Acid Deposition 事務局  
2022 年 3 月 1～4 日 開催  
(2021 年 10 月に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症のために延期となった)

[参考] 令和 2 (2020) 年機関代表会議・2020 年度事業計画

(2020 年) 3 月 25 日に ACID RAIN 2020 事務局より、研究集会の開催が新型コロナウイルスのために 1 年延期することに決まったとの連絡があった。

本件は、①主催者ではなんともしがたい「災害事象」による会合延期であることを踏まえ、IUFRO-J 役員間で検討し、②実質単純な延期、または選考結果に影響を与えない程度の内容変更である場合は、IUFRO-J 事務局一任で選考結果と予算を次年度へ引き継ぐこととする。①・②を確認し、判断できない、または問題がある場合は、再申請・再審査することとする。

## 2.2) 2021年申請分

12月末で申請額を集計し選考委員会に諮り、総額50万円程度を助成する。

事務局助成については、2019年度における議論を踏まえ選考の際の参考資料として、研究集会全体の予算計画の提出を要望することとする。

-----

助成事業の概要（詳細はIUFRO研究集会事務局・参加助成実施要領参照のこと）

○助成申請は随時受け付けている。

○12月末で集計し、選考委員会に諮り、助成対象を決定。

○具体的内容

年間総額50万円程度

事務局：20万円/件

参加：10万円/件（発表は海外に限る、ただし世界大会を含まない。）

選考委員会で決定。

応募資格：会費を納入している機関、会員に限る。

助成を受けた者のオブリゲーション：IUFRO-J NEWSでの報告。

加えて、事務局助成の場合は、IUFRO-Jの助成があることを研究集会参加者に明示。

-----

※ IUFRO-J 会員に該当者がいないため、「役員会出席助成」は2018年度から事業計画に掲載していない。（詳しくは、IUFRO-J NEWS No.124掲載の機関代表会議概要報告を参照のこと。）

## 3) 研究集会の後援

- ・研究集会の目的がIUFRO-Jの主旨に沿う研究集会について、広報の支援を行う。
- ・後援内容は、経費の支出をとまなわないものとする。
- ・主催者からの申請にもとづき、事務局で後援を決定、実施し、機関代表会議に報告する。

## 4) IUFRO本部との連携

IUFRO-J事務局としてメール等を介してIUFRO本部との連携を推進するとともに、IUFRO-JウェブサイトからIUFRO情報を発信する。

## 5) IUFRO-Jによる普及啓発活動

IUFRO-Jウェブサイト等を通じて、IUFRO及び

IUFRO-J会員の活動を、国内外のより多くの人に紹介する。

## 6) その他

- (1) 現時点で複数年にわたり連絡が取れない機関（1機関）を、2020年度をもって退会とする。

## 議題5. 2021年度予算案

予算案立案の基本的な考え方：単年度収支均衡を心がける。

## 一般会計予算案

【収入】 (円)

科目	予算	備考
前年度繰越金	1,537,958	
会費 A 会員	468,000	加入 19 機関
B 会員	53,000	加入 12 機関
C 会員	21,000	21 名
20 年度までの未収分	73,000	7 機関
雑収入	7	利息
単年度収入小計	615,007	
合計	2,152,965	

【支出】 (円)

科目	予算	備考
情報活動費	337,000	IUFRO-J NEWS 印刷及び発送手数料
内訳		
IUFRO-J NEWS	150,000	印刷費
No. 130 印刷・発送	15,000	送料、発送手数料
IUFRO-J NEWS	150,000	印刷費
No. 131 印刷・発送	15,000	送料、発送手数料
通信費	7,000	郵送料、発送用封筒購入
会議費	0	令和3(2021)年機関代表会議は、メール会議に変更して開催
雑費	30,000	送金および会費振込手数料、受払通知票発行料等
助成	200,000	事務局助成1件
単年度支出小計	567,000	
予備費	1,585,965	2019年度採択助成金(1件・200,000)を含む
合計	2,152,965	

## 議題6. 役員選出、承認

## 2021年度役員

役員 氏名	所属	区分 (任期)
議長 中静(浅野) 透	森林総合研究所	現 (1 期目：2021 年 4 月～)
監事 石塚 森吉	国際緑化推進センター	現 (2 期目：2021 年 4 月～)
監事 木口 実	日本大学	新 (前任残：2021 年 4 月～)

幹事 平田 泰雅 森林総合研究所  
現 (3 期目: 2020 年 4 月~)

幹事 藤間 剛 森林総合研究所  
現 (1 期目: 2020 年 4 月~)

主事 杉元 倫子 森林総合研究所  
現 (1 期目: 2020 年 4 月~)

議長, 幹事および監事は機関代表会議で選出し, 主事

は議長が委嘱。(会則第 11 条)  
任期は 2 年とし, 再任を妨げない。(会則第 12 条)

瀧澤英紀氏 (日本大学) に代わり, 木口実氏 (日本大学) に監事にご就任いただきました。5 年もの間 IUFRO-J に監事としてご尽力いただいた滝澤氏と, 監事就任をご快諾下さった木口氏に, お礼申し上げます。(事務局)



#### ◇ 1. ANNUAL REPORT 2020 発行 (2021-04-27)

パンデミックにより生じた諸々の制限がありつつも, IUFRO の活動がどのように継続され, 森林科学における共同研究などのつながりをさらに進めることができたかについてまとめられています。IUFRO 本部の以下のウェブサイトダウンロード出来ます。(総頁数 32 頁の報告と, 要点をまとめた 4 頁のリーフレットがあります。)

<https://www.iufro.org/publications/annual-report/article/2021/04/27/annual-report-2020/>

#### ◇ 2. IUFRO の国際集会

IUFRO News Vol.50, Double Issue 4&5 に記載の国際集会の内, 2021 年 8 月以降に開催予定のものを次に転記します。COVID-19 の影響がまだ続いているので, 最新情報は IUFRO 本部のウェブサイトでご確認ください。

<https://www.iufro.org/events/calendar/current/>

16-18 Aug 2021

#### 20th Commonwealth Forestry Conference –Sessions for IUFRO Divisions 6 and 9

Vancouver, BC, Canada, online

9.03.07, 9.03.00, 9.00.00, 6.10.01, 6.00.00

Contact: Stephen Wyatt, [stephen.wyatt@umoncton.ca](mailto:stephen.wyatt@umoncton.ca)

Janette Bulkan, [janette.bulkan@ubc.ca](mailto:janette.bulkan@ubc.ca)

<https://cfc2021.ubc.ca/>

28-29 Sep 2021

#### IUFRO World Day - Digital Forest Science Forum 2021 (→詳細は後ろの「事務局からのお知らせ」に)

Online in three time zone groups

Contact: Carola Egger, [egger@iufro.org](mailto:egger@iufro.org)

<https://www.iufro.org/events/iufro-world-day/>

28-29 Sep 2021

#### Forest Ecosystems in the Conditions of Climate Change: Biological Productivity and Remote Sensing

Online / IUFRO 4.02.05

Contact: Eldar Kurbanov, [kurbanovea@volgatech.net](mailto:kurbanovea@volgatech.net)

<https://feucc.volgatech.net/>

26-28 Oct 2021

#### <NEW DATE!> 3rd IUFRO Acacia Conference 2021: Embracing Transformation for Sustainable Management of Industrial Forest Plantations

Online / IUFRO 2.08.07

Contact: Wickneswari Ratnam, [wicki@ukm.edu.my](mailto:wicki@ukm.edu.my)

<https://iufroacacia2020.com/>

6-9 Sep 2022

#### All-Division 7 Conference

Lisbon, Portugal

IUFRO 7.00.00

Contact: Manuela Branco, [mrbranco@isa.ulisboa.pt](mailto:mrbranco@isa.ulisboa.pt)

Eckehard Brockerhoff, [eckehard.brockerhoff@wsl.ch](mailto:eckehard.brockerhoff@wsl.ch)

<https://www.iufro.org/science/divisions/division-7/70000/activities/>

12-16 Sep 2022

#### ForestSAT2020 - Last Call for Forests!

Krakow, Poland

IUFRO 4.02.05

Contact: Piotr Wężyk, [p.wezyk@ur.krakow.pl](mailto:p.wezyk@ur.krakow.pl), [forestsat2020@gmail.com](mailto:forestsat2020@gmail.com)

<http://forestsat2020.forestsat.com/>

23-25 Sep 2022

**IUFRO Regional Conference****Sustaining the Forests of Russia and Eurasia: Management, Innovation, Conservation and Restoration**

Moscow, Russian Federation

<https://www.iufro.org/events/congresses-regional/>[http://mf.bmstu.ru/iufro-conf\\_2022](http://mf.bmstu.ru/iufro-conf_2022)

23-29 Jun 2024

**XXVI IUFRO World Congress 2024**

Stockholm, Sweden

Congress website: <https://www.iufro2024.com/>

IUFRO 以外の国際集会については、以下のウェブサイト  
 サイトで確認下さい。

<https://www.iufro.org/discover/noticeboard/>

## 事務局からのお知らせ

### 1. IUFRO の動き

IUFRO 加盟機関には、IUFRO 本部からの案内が 5 月に届いているかと思いますが、9 月 28 日～29 日に「IUFRO WORLD DAY」と題したデジタルフォーラムが開催されます。

IUFRO の 129 年にわたるの歴史の中で、我々を取り巻く自然と人が直面している数多くの課題に対処するための必要な知識を世界に提供するために、グローバルな研究協力と連帯を強化することがこれほど重要なことはありませんでした。対面でのイベント開催が困難な状況が続く中、初の試みとして、24 時間のオンラインフォーラムが企画されました。

IUFRO 本部や加盟機関によるライブや録画のセッションやウェビナーの開催、それらも含めたデジタルコンテンツへのリンク提供などが、5 月末時点で計画されております。特に若手に向けた企画なども検討されているようです。

時差を考慮して 3 つの時間帯が設定されており、アジア・オセアニアは、日本時間 29 日 12 時～20 時開催で予定されています。最新情報については、以下 URL からご確認下さい。またとない機会ですので、IUFRO-J 会員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

<https://www.iufro.org/events/iufro-world-day/>

また、IUFRO がウェブサイトで公開している IUFRO News, IUFRO Spotlight などについては、極力発行され次第 IUFRO-J のウェブサイトでもご案内しておりますので、IUFRO-J ウェブサイトも是非ご確認下さい。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>

### 2. IUFRO 研究集会事務局・参加助成

IUFRO-J では日本国内に事務局がある IUFRO 研究集会の事務局費及び、国外で開催される IUFRO 研究集会への参加費に対する助成を行っています。実施要領や過去の実績は、下記ウェブサイトでご確認下さい。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/information.html>

2022 年 1 月から 2023 年 3 月に開催される研究集会が助成の選考対象です。申請は随時受け付けております。希望者は 2021 年 12 月末までに、規定の書式に従い助成申請書を提出してください。申請書の様式も上記ウェブサイトからダウンロード出来ます。申請は 12 月末時点で集約し、採否を選考委員会で決定いたします。なお事務局助成については、選考の際の参考資料とするため、研究集会全体の予算計画の提出もお願いいたします。

これまでのような海外との人の行き来がいつ回復するのか、見通し難い状況が続きますが、助成対象になる可能性のある方はふるってご応募下さい。

### 3. IUFRO-J NEWS への寄稿のお願い

IUFRO-J では、森林・林業・木材産業に関する国際情報、国際研究集会の開催予定や内容紹介について、会員間で共有を図っております。IUFRO 関連国際研究集会にご参加を予定されている方々は元より、オンライン開催された研究集会への参加報告や感想など、IUFRO-J NEWS へのご寄稿をお待ちしております。

また、森林・林業・木材産業に関連する研究機関、出版物の情報等、会員で広く共有したい事項について、記事をお寄せ下さい。会員相互の情報交換の場として、「IUFRO-J NEWS」をご活用下さい。



The poster features a central graphic of a globe and a forest scene. The IUFRO logo is at the top left, with the tagline 'Interconnecting Forests, Science and People'. The main title 'IUFRO World Day' is in large green letters, followed by 'Digital Forest Science Forum'. The dates '28-29 September 2021' are prominently displayed, along with the text 'Three time zones around the world 24 hours'. A call to action 'Come and get to know the world of IUFRO!' is followed by the website 'www.iufro.org'. A 'Participate' section lists activities: 'Interactive map', 'Parallel sessions', 'Networking sessions', and 'Science Policy Forums'. A 'Contact' section provides details for MSc. Carola Egger, Project Manager. At the bottom, it says 'Visit our event website: www.iufroworldday.org'.

**IUFRO**  
Interconnecting  
Forests, Science and People

# IUFRO World Day

## Digital Forest Science Forum

Members of the global IUFRO network will show and share forest-related research work, projects, news and more!

**Come and get to know the world of IUFRO!**  
 [www.iufro.org](http://www.iufro.org)

**28-29 September 2021**  
Three time zones around the world  
24 hours

**Participate**  
IUFRO Units and Member Organizations are invited to shape the program! Anyone interested in forest-related research can join the conversation and find a variety of information!

-  **Interactive map:** Discover sessions and forest-related research content from around the world
-  **Parallel sessions:** IUFRO Divisions, Task Forces and Member Organizations will share their work
-  **Networking sessions:** Meet the IUFRO leadership, find out how IUFRO works and how to get involved, have your say
-  **Science Policy Forums:** Cutting edge research and emerging issues of relevancy for policy and decision makers will be discussed

**Contact**  
MSc. Carola Egger  
Project Manager IUFRO World Day  
International Union of Forest Research Organizations  
Tel.: +43-1-877 0151 \* Email: [egger@iufro.org](mailto:egger@iufro.org)

Visit our event website: [www.iufroworldday.org](http://www.iufroworldday.org)

**IUFRO-J NEWS No. 130** July 27, 2021  
Copyright © 2021 IUFRO-Japan  
Published by IUFRO-Japan  
Edited by IUFRO-Japan Secretariat  
1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687 JAPAN  
TEL: +81-29-829-8327  
[http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/index\\_Eng.html](http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/index_Eng.html)  
Email: [iufro-j@ffpri.affrc.go.jp](mailto:iufro-j@ffpri.affrc.go.jp)  
ISSN: 2189-5503

**IUFRO-J NEWS No. 130** 2021年7月27日  
国際森林研究機関連合日本委員会 (IUFRO-J) 事務局  
〒305-8687 茨城県つくば市松の里1  
国立研究開発法人 森林研究・整備機構  
森林総合研究所内  
TEL 029-829-8327 (企画部国際戦略科国際連携推進室)  
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>  
Email: [iufro-j@ffpri.affrc.go.jp](mailto:iufro-j@ffpri.affrc.go.jp) [編集・発行]